

京都災害ボランティア支援センター活動報告

京都災害ボランティア支援センター
藤野 正弘

3月11日(金)地震発生

3月13日(日)京都災害ボランティア支援センター設置

設置主体：京都府災害ボランティアセンター+京都府災害ボランティアセンター
常設の両センターが日頃から情報交換、人的交流を行っていたおかげで、いち早く
合同でセンターを立ち上げることが出来た。

この間、「府民、市民の皆さまへのお願い」を2度にわたり発信。

被災地は人命救助優先で混乱を避けるため、被災地を訪問しない・物資を送らない・被災地に
電話で問い合わせをしないとの内容。

3月28日(月)メルパルク京都(京都駅前)に事務所を開設

常設事務所が開設できたため、相談対応が飛躍的に増えた。

京都府が募集した支援物資の仕分けボランティアを募集した(4月1日~4日、8日~11日)
募集人員 200名に対して、延べ541名の応募があった。

この間、先遣隊を3名派遣し被災地でのニーズ把握と調整に努めた。

4月25日、26日 災害ボランティア事前研修会を行った。

4月29日~5月2日

被災地支援活動ボランティアバス3台を運行した。

定員90名に対して460名の応募があった。

活動先は、岩手県陸前高田市、宮城県東松島市、福島県郡山市

主な相談内容

- ・被災地に行って活動したい
- ・被災地から避難してきた人々に対して手助けしたい
- ・支援物資を送りたい

みなさん「何かお手伝いがしたい」「何とかしたい」という熱い思いの方が多い。

当センターはそのような思いを持った多くのボランティアの人が電話・窓口対応や情報整理、
入力業務などでお手伝いいただいています。

当センターは「復興まちづくり」を事業として行っているわけではありませんが、
災害ボランティア支援の観点から気がついたこととお話します。

被災地からこちらに避難して来られている方のお話を聞きますと、人とのつながりをとても求
めておられます。こちらに来られた方のコミュニティづくりを支援するのも、当センターの役
割だと思っています。京都府内には行政を通じてきた人たちだけでも800人近く、独自に避難
してきておられる方を含めると1000人以上の方が不自由な暮らしを強いられています。
そんな方々がひとつ所に集まり情報交換してネットワーク作りをするイベントを計画していま
す。

今回の震災に対する市民のみなさんの熱意は、人数や年齢等従来の災害には見られなかった盛
り上がりを感じられます。このエネルギーが復興に寄与するものと願っています。

以上